

工事事故(速報)の情報提供について

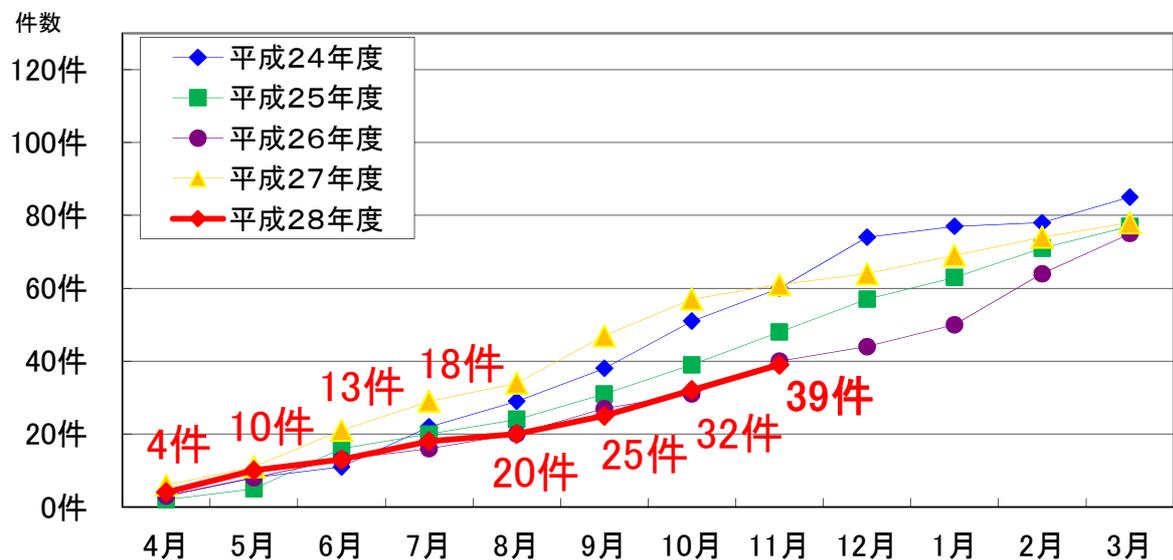
工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところではありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事故が発生しました。
本資料を活用し、事故防止に努めて頂きますようお願いいたします。

【工事事故(速報)発生状況】 (H28.11.30現在)

	11月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成28年度(今年度)	7件	39件	1人	16人
平成27年度(昨年度)	4件	61件	4人	17人

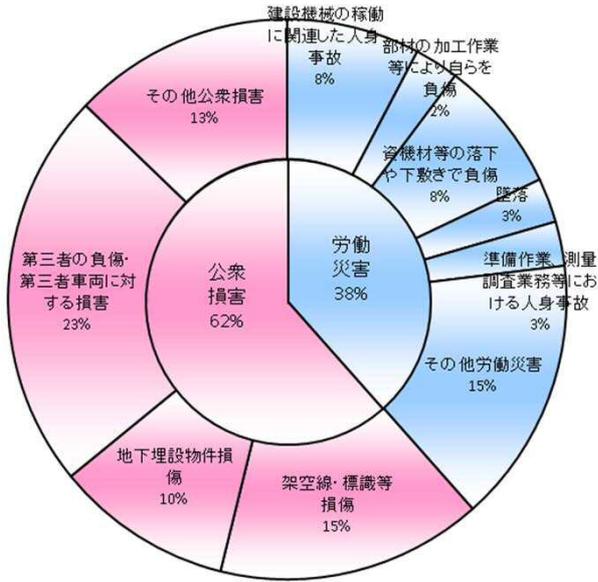
- 注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事故発生件数(速報)を示す。
- 注2) 「11月発生件数」は、11/1～11/30の間に起きた件数。(月毎分)
- 注3) 「累計件数」は、4/1～3/31の間に起きた件数。(累計分)
- 注4) 「死亡者数」・「負傷者数」は、4/1～3/31の累計人数を示す。
- 注5) 平成28年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

●工事事故件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成24年度 累計	3件	8件	11件	22件	29件	38件	51件	60件	74件	77件	78件	85件
(月毎)	(3件)	(5件)	(3件)	(11件)	(7件)	(9件)	(13件)	(9件)	(14件)	(3件)	(1件)	(7件)
平成25年度 累計	2件	5件	16件	20件	24件	31件	39件	48件	57件	63件	71件	77件
(月毎)	(2件)	(3件)	(11件)	(4件)	(4件)	(7件)	(8件)	(9件)	(9件)	(6件)	(8件)	(6件)
平成26年度 累計	3件	8件	13件	16件	20件	27件	31件	40件	44件	50件	64件	75件
(月毎)	(3件)	(5件)	(5件)	(3件)	(4件)	(7件)	(4件)	(9件)	(4件)	(6件)	(14件)	(11件)
平成27年度 累計	6件	11件	21件	29件	34件	47件	57件	61件	64件	69件	74件	78件
(月毎)	(6件)	(5件)	(10件)	(8件)	(5件)	(13件)	(10件)	(4件)	(3件)	(5件)	(5件)	(4件)
平成28年度 累計	4件	10件	13件	18件	20件	25件	32件	39件				
(月毎)	(4件)	(6件)	(3件)	(5件)	(2件)	(5件)	(7件)	(7件)				

●平成28年度 工事事故発生状況(発生形態別)

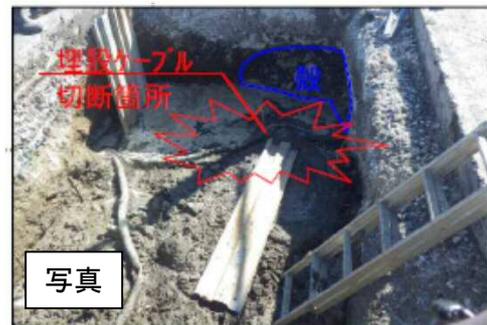
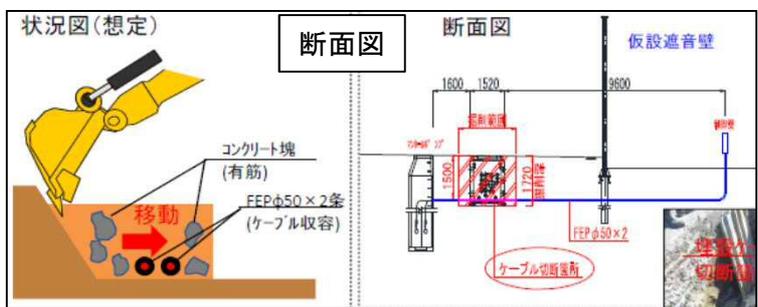
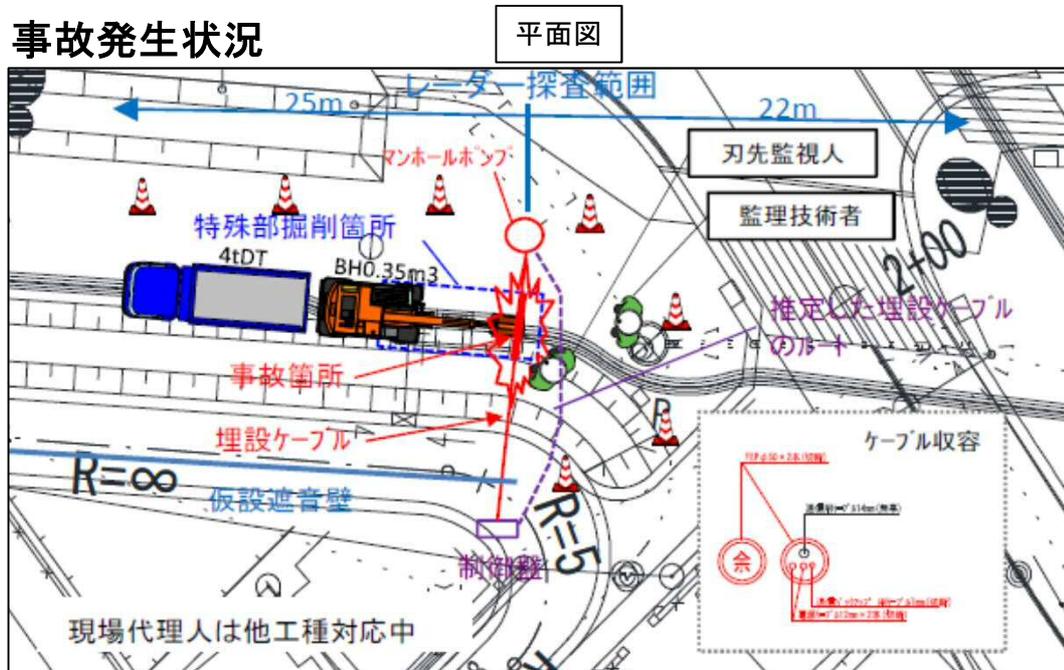


発生形態		H26	H27	H28	過去3年間計
労働災害	建設機械等の稼働に関連した人身事故	4	3	3	10
	部材の加工作業等により自らを負傷	2	1	1	4
	資機材等の落下や下敷きで負傷	4	2	3	9
	墜落	6	7	1	14
	準備作業、測量調査業務等における人身事故	0	0	1	1
	その他労働災害	14	13	6	33
小計		30	26	15	71
公衆損害	架空線・標識等損傷	8	13	6	27
	地下埋設物件損傷	7	4	4	15
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	21	16	9	46
	その他公衆損害	8	14	5	27
小計		44	47	24	115
その他事故		1	5	0	6
計		75	78	39	192

 ..H28年度重点的安全対策項目

発生日時	平成 28 年 11 月 4 日 (金) 10 時 20 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	下水道ポンプ電源ケーブル損傷(32世帯に影響)
事故概要	電線共同溝の特殊部設置するための掘削作業中に、下水圧送のためのポンプの電源ケーブルを引っ掛け断線させた。ポンプ2基が停止状態となっており汚水が流れない状況。下水圧送停止による影響世帯数は32世帯 公衆損害—地下埋設物件損傷			

事故発生状況



・電線共同溝の特殊部設置するための掘削作業中に、下水圧送のためのポンプの電源ケーブルを引っ掛け断線させたものである。これにより、ポンプ2基が停止状態となっており汚水が流れない状況。下水圧送停止による影響世帯数は32世帯。
 ・人力による先行掘削を行っていたが、コンクリート塊が出てきたため、バックホウでの作業に切り替えた。

【事故発生原因】

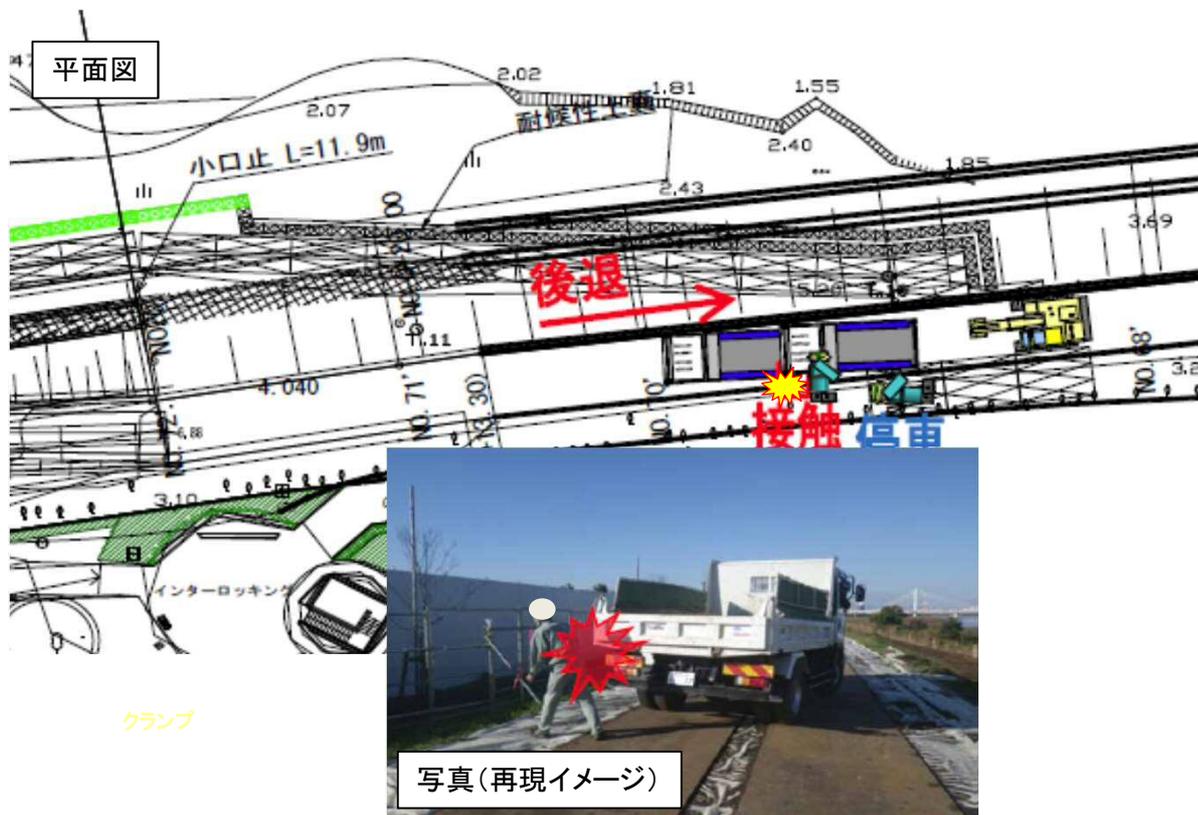
- ・先行掘削が困難箇所では機械掘削で作業を実施した
- ・埋設物は無いだろうという意識が働いた。(コンクリート塊があったこと及び埋設シートがなかったことから) など

【事故防止のポイント】

- ・想定外の状況より当初の作業計画に変更が生じた場合は安全対策等を十分に検討するなど

発生日時	平成 28 年 11 月 10 日 (木) 16 時 15 分			
工事情報	河川系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	18	土工	右足関節外側側副靭帯損傷・骨盤打撲(加療4日)
事故概要	土砂運搬車(4tダンプ)が工区中央付近の回転場で切り返し、後退で運搬中に、誘導員が誘導を行っていたところ、ダンプが後退してきて接触し転倒した。 労働災害ーその他 工事関係者事故			

事故発生状況



川表仮設坂路盛土の為4tダンプで場内の土砂を運搬作業中、誘導員(被災者)が、ダンプ後退の誘導をしていた最中、川表法面に後進左旋回で荷卸をする前段でダンプが左に寄った為、左側を確認しに移動した誘導員が河川利用者通路の方からの大声にとられ、その時後退してきたダンプと接触し負傷

【事故発生原因】

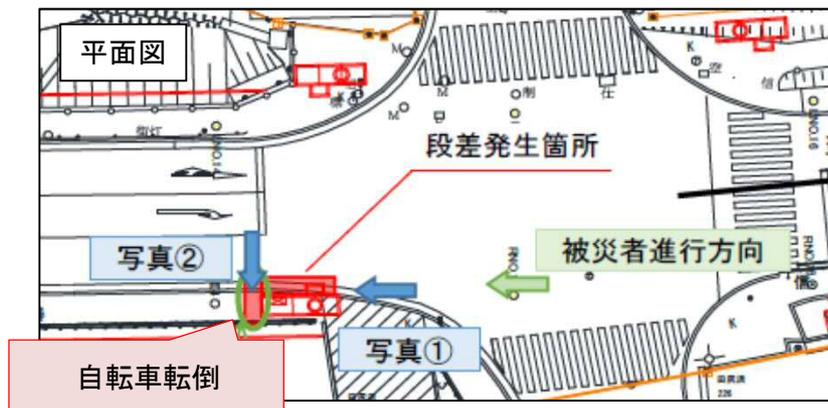
- ・誘導員が、ダンプを停止することなく、左側を見に移動してダンプの死角に入った
- ・運転手は誘導員が見えなくなったが、自己判断でそのまま後退を続けた など

【事故防止のポイント】

- ・誘導員は誘導を中断せず、最後まで確実に行う
- ・運転手は誘導員の指示に従う事を徹底させる など

発生日時	平成 28 年 11 月 19 日 (土) 17 時 30 分			
工事情報	道路系事務所 As舗装工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	30	-	前歯1本を折る(全治2週間)
事故概要	電線共同溝のますを設置した余掘部分における舗装の仮復旧箇所において、埋め戻し不良による沈下が発生し、現場をの歩道を通行した自転車が穴(段差)にはまって転倒し、前歯(上)1本を折るけが 公衆災害-第三者の負傷・第三者車両に対する損害			

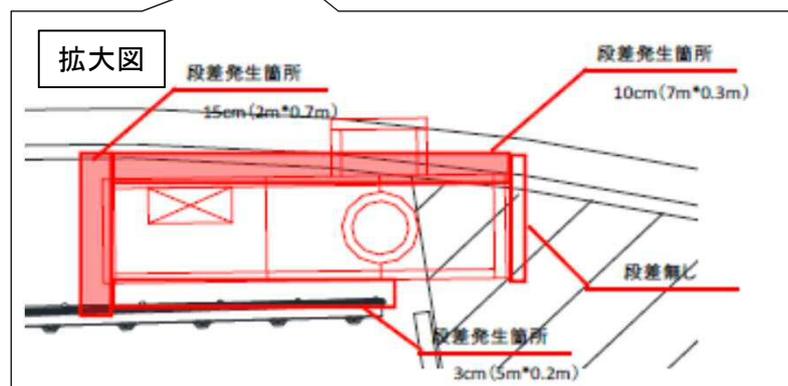
事故発生状況



・電線共同溝工事において特殊部ますを夜間工事にて歩道部に、設置し翌朝に舗装復旧を行い供用させた

・事故当時は、ますを設置した箇所の余掘り部において、歩道路面に15cm程の段差が生じていた。

・被災者は自転車にて歩道部を上り方面へ走行中、前輪が段差にはまって転倒し、負傷した



写真



【事故発生原因】

・埋戻しの水締めが不十分であった。(埋戻し作業時には開放時間が迫り、あせって水締めを行い、締め固め状態の確認をせずに次工程(フィルター層、路盤工)に進めさせていた。)

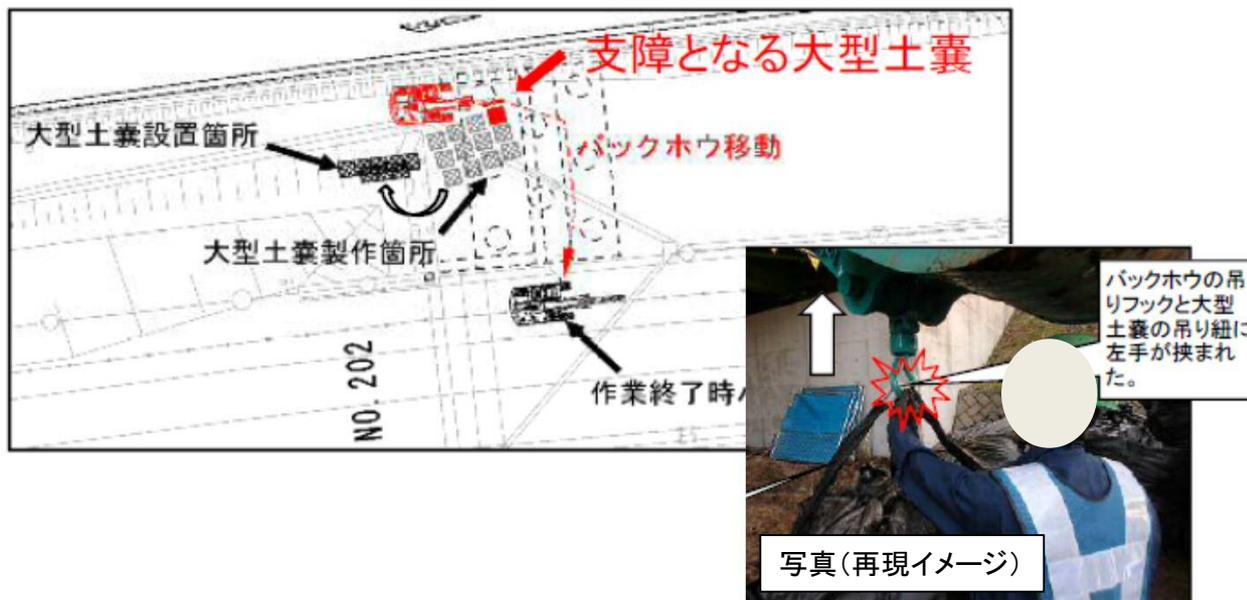
【事故防止のポイント】

・施工計画書どおりの適切な施工を実施することを徹底させる
・段階確認を実施するなど

発生日時	平成 28 年 11 月 25 日 (金) 16 時 50 分			
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	18	土工	左中指・薬指裂傷(全治2週間)
事故概要	大型土嚢をバックホウ(クレーン仕様)で移動作業中に、被災者が大型土嚢の吊り紐を左手で持ったまま、大型土嚢の吊り上げを行ったため、大型土嚢の吊り紐とバックホウのフックの間に左手を挟まれて負傷した。 労働災害—建設機械の稼働に関連した人身事故			

事故発生状況

平面図



- ・地盤改良工事に伴い、路体盛土部の掘削を行い、その土砂にて大型土嚢を製作・設置していた。(監理技術者が製作12袋を口頭指示)
- ・当日の作業を終了し、後片付けのため、使用していた0.45m³バックホウ(クレーン付き)を所定の位置へ移動していた。
- ・製作した大型土嚢の1袋がバックホウの走行の支障となったため、大型土嚢を移動しようと被災者が吊フックに大型土嚢の吊り紐を掛けた。(予定外作業)
- ・被災者が吊り紐を左手で握ったまま、被災者自身が吊り上げる合図を送り、そのまま吊り上げたため左手指が吊フックと吊り紐の間に挟まれ、負傷

【事故発生原因】

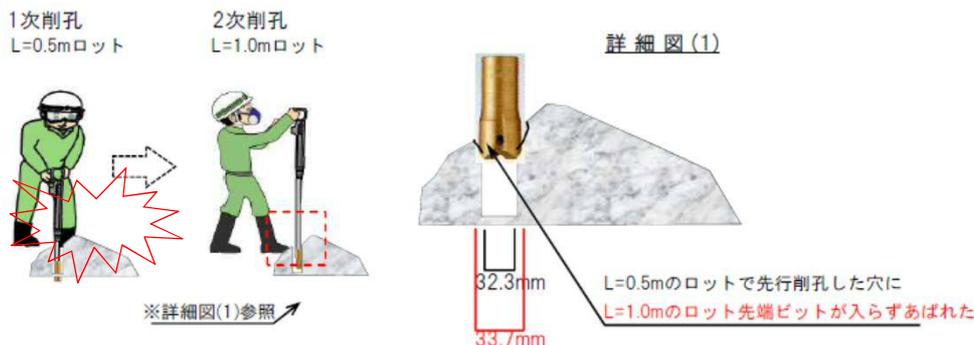
- ・無資格者(被災者)が玉掛作業を行った
- ・吊り紐を握ったまま大型土嚢を吊り上げた など

【事故防止のポイント】

- ・無資格者に作業させないことを周知徹底させる
- ・吊り荷下に進入禁止を徹底させる など

発生日時	平成 28 年 11 月 29 日 (火)			8 時 45 分
工事情報	道路系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男	66	普通作業員	左中指・薬指PIP開放性関節脱臼(全治3ヶ月)
事故概要	ハンド式の削岩機の回転部に巻き込まれ手を負傷			
労働災害－その他工事関係者事故				

事故発生状況



【1次削孔】
平成28年11月29日(事故発生当日)
転石小割り破碎作業のためL=0.5mのロットで先行削孔



【2次削孔】
先行した穴に併せ、L=1.0mのロットで削孔した際、
1次削孔した穴に入らなかったために先端部が暴れ
始め咄嗟にロットをにぎってしまった。



- ・排水構造物工として小段排水の施工を下請作業員4名で行っていた。
- ・前日の作業で小段排水布設予定箇所に巨礫(推定φ1000mm)が確認されたため、直営作業員2名で転石小割り破碎作業を行っていた。
- ・巨礫であることから1次削孔としてL=50cmロットで削孔を行い、その後L=100cmロットで2次削孔を行う予定であったが、L=100cmロットの先端ビットが先行削孔した穴に入らなかったが、そのまま作業を継続してしまい、ロットが暴れ出したため、直近で小段排水の基礎碎石を布設していた下請作業員が咄嗟にロットを握ってしまい被災。

【事故発生原因】

- ・2次削孔時、ロットが先行削孔の穴に入らない状況でそのまま作業した。など

【事故防止のポイント】

- ・不測の事態が生じた場合は、作業を中止して元請職員の指示を仰ぎ、安全な作業ができることを確認したうえで作業を実施する。など